

にけーしよん

8/21・9/10 街道灯籠祭り愛南

8月21日の御荘夏まつりにあわせて、今年も「海街道をゆく」と題した街道灯籠祭り愛南が行われました。僧都川河口の遊歩道にろうそくと和紙を使った手づくり竹灯籠180個がボランティアにより設置され、夏まつりの打ち上げ花火とともに、遊歩道を灯籠の灯りが美しく照らしていました。



この日、観自在寺境内にも108個の灯籠が燈され、お大師様の縁日に彩りを添えました。

また9月10日には、山出地区で「山街道をゆく」と題して開催され、棚田に設置された約500個の手作り灯籠に灯りが燈され、満月の月明かりとともに、暮れ行く山里の幻想的な風景を多くの人々が楽しみました。

9/10 地域とともに! 「納涼いちご祭」

知的障がい者更生施設「いちごの里」で、初めての試みとして盆踊りを中心とした「納涼いちご祭」が行われました。一本松保育所の園児たちの可愛らしいおゆうぎや赤水小学校児童による元気なよさこいソーランをはじめ、婦人会や輪の会、フラダンス教室などの各種団体、入所者、福祉施設職員による踊りなどが披露され、楽しい一夜の催しとなりました。最後にお楽しみ抽選会が行われ楽しく盛り上がりました。



本日!海日和!! 「チョウチョウウオの季節」

この季節、須ノ川はサンゴの中を泳ぐチョウチョウウオの子どもたちでにぎわっています。この多くは沖縄近海から黒潮に乗ってやって来た子どもたちです。今年はどうな子どもたちが見られるのか、わくわくしながら潜ると、写真のような9種類を見つけることができました。それぞれに鮮やかな色や模様をしており、サンゴの海を彩っていました。

しかし、この中で冬を越せるのは、寒さに強い①のチョウチョウウオだけです。他は冬の寒さに耐えることができずに死んでしまう運命にあります。このように南の海からやってきて冬を越すことのできない魚を、死滅回遊魚といいます。

かわいいチョウチョウウオを撮りながら、成魚になることなく死んでゆく生命のはかなさと、命をかけて生息域を広げようとする死滅回遊魚のたくましさを感じました。

(須ノ川 水深3m 2011.8.29)環境省自然公園指導員 西尾知照

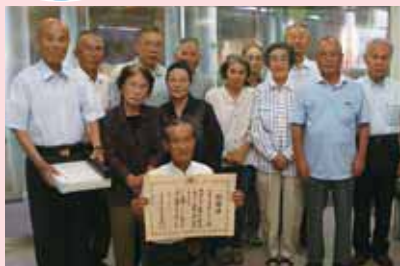
愛南こみゆ

8/29 京都大学交響楽団演奏会2011inあいなん

御荘文化センターで「京都大学交響楽団2011inあいなん」が開催され、約450名の観客が、交響曲「運命」やバレエ組曲「白鳥の湖」など正統派クラシックの名曲から、軽やかな曲調の管弦楽曲で知られるルロイ・アンダーソンの曲、ジブリメドレーなどを楽しく鑑賞しました。また、3名の子どもたちがビゼーのカルメン前奏曲の演奏を指揮者として体験しました。



9/2 道路を美しく!



「栄寿会(栄町老人クラブ、中尾利春会長、会員26名)」が、国道の清掃や花壇の管理など長年ボランティア活動を通じて国道の環境美化に努め、道路愛護の精神を多くの人々に広めたとして、大畠草宏国土交通大臣から感謝状が送られました。同会は、道の駅「みしょうMIC」前の花壇の管理など道路の美化活動を20年以上継続して行っています。これからもお元気で道路の美化活動に努めていただきたいと思います。



9/4 県境篠山騒動!どろんこサッカー大会

篠山小学校体育館横の田んぼで、「第21回県境篠山騒動どろんこサッカー大会」が、正木地区と高知県宿毛市山北地区の住民で構成する地域おこしグループ「篠山クラブ(毛利洋一会長)」の主催により、楽しく賑やかに開催されました。今年はサッカーなでしこジャパンの活躍の影響か、女子チームの参加が多く、県内外から男子52チーム、女子17チーム計69チーム、約500名が出場して泥まみれの熱戦を繰り広げました。

このほか、地元物産販売や「どろんこフラッグス」「うなぎつかみ」「お楽しみ抽選会」「もちまき」など楽しい催しが行なわれ、普段静かな県境の地域も訪れた約3千人の観客で大いに賑わいました。また同大会のフォトコンテスト入賞をめざして、多くのカメラマンが泥まみれの選手の決定的瞬間を狙っていました。なお、同コンテストの公開審査は10月1日(土)、14時から篠山小学校体育館で行われます。

【入賞チームは次のとおりです】

男子の部 優勝 「Seven star」チーム 準優勝 「ゆとり世代」チーム
 3位 「The Prefectures」チーム 3位 「ヒノトモアキ」チーム
 女子の部 優勝 「セクシー♥キャッツ JAPAN」チーム
 準優勝 「今日の俺はちがうんや。」チーム

